

心に残る文化財子ども塾 奥出雲町立三沢小学校

1. 活動の概要

9月1日(火)、奥出雲町立三沢小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに縄文・弥生時代のこと、三沢小学校周辺の遺跡について、県埋蔵文化財調査センターの職員から、話を聞きました。三沢小学校周辺には、尾原ダムや道路建設に伴いたくさんの縄文時代の遺跡や古墳が調査されて、縄文時代の遺跡がたくさんあること、その縄文時代や弥生時代の生活の様子について学習しました。

次に、体験活動にあわせて、土器について学習しました。縄文土器と弥生土器の違いなどについて、写真や実際の出土遺物を見学し、土器についての理解をさらに深めました。

その後、「土器づくり」を行いました。粘土を輪積みにし、思い思いの形を作っていました。また、縄や貝殻を使って文様を付けるなど、それぞれ工夫して、土器を仕上げました。「火起こし体験」では、場所は昇降口に移動して、一生懸命、チャレンジしました。煙が出るまではたくさんの児童ができましたが、火種まで起こすのは難しかったようです。児童に当時の人々の技術力の高さについて感じてもらうことができ、有意義な体験活動になりました。

2. 活動の様子

1)奥出雲町の縄文・弥生時代について知る



縄文土器や石器を実際に見ました。

2)古代体験活動～土器づくり・火起こし体験～



土器に文様をつけてみよう。



皆さん、一生懸命、火起こし体験をしました。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・本物の縄文土器を見たり、さわったりできたので楽しかったです。
- ・火おこしが難しかった。
- ・土器作りが楽しかったです。
- ・縄文土器を作って、火で焼きたかった。

2)担任の先生から…

- ・地元から出土した土器を実際に見たり触ったりできて、よかった。
- ・レプリカ等で、黒曜石の切れ味を試したり、土器にもものを入れたりできると興味がさらに深まると思った。
- ・土器や石鏃、石槍等を使う様子が映像で見られるとさらにわかりやすかった。

3)埋文センターから

縄文・弥生時代の説明では、写真などの資料を見せながら説明し、興味をもって話を聞いてもらうことができました。また実際に近くで出土した縄文土器と弥生土器を見ることで、土器の違いや特徴など確認し、理解が深まったように感じます。自分たちが住んでいる近くにもたくさん遺跡があることを知ってもらえたと思います。

「土器づくり」、「火起こし体験」の2つの体験活動を実施したことで、時間的な制約がありましたが、児童の皆さんは、一生懸命作業に取り組んでくれました。先生方のご協力もあり、思い思いの形の土器をつくっていました。「土器づくり」や「火起こし」の作業について、児童の皆さんから「難しい、当時の人たちはすごい」などと声を聴くことができ、当時の人々の技術力の高さや文化について、実感してもらうことができたと感じました。